

大原野



金蔵寺に向かう東海自然歩道から見る棚田

大原野には古墳、窯跡、寺跡などの遺跡があり、土の中から当時の遺構が掘り出されています。また、藤原氏、在原業平や西行法師ゆかりの社寺もあり、徳川五代将軍綱吉の母、桂昌院が大きく寄与したお寺も山腹にあり、その風光明媚さは有名です。大原野の古代につながる社寺や古墳、東海自然歩道、歴史にゆかりのある社寺を雰囲気のある道筋でご案内します。それぞれの体力に応じてルートを分割し、風景を楽しみながら大原野を味わってください。

おすすめルートのご案内

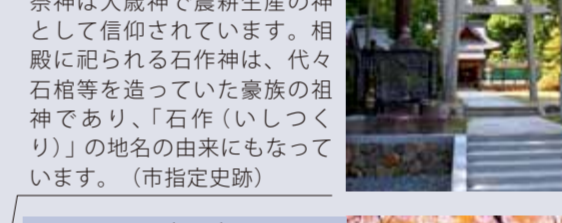


古墳公園 (こふんこうえん)



約100m北の地点で発見された下西代2号墳が移築復元されています。約1400年前に造られた古墳で、玄室内に小石室を設けた特殊な構造となっており、当時の葬り方がわかる貴重な資料として現在は古墳公園になっています。

大蔵神社 (おおとしじんじや)



祭神は大蔵神で農耕生産の神として信仰されています。相殿に祀られる石作神は、代々石棺等造っていた豪族の祖神であり、「石作(いしつくり)」の地名の由来にもなっています。(市指定史跡)

十輪寺 (じゅうりんじ)



通称「なりひら寺」とも呼ばれる平安時代の歌人、在原業平ゆかりの寺。晩年の閑居跡といわれ、業平の墓と伝わる宝篋印塔や塩竈があります。命日にあたる5月28日には、業平を偲ぶ「業平忌三弦法要」が行われます。

三鈷寺 (さんごじ)



西山宗の総本山で、名前は背後の山の三峰が仏具の三鈷に似ていることに由来します。寺宝も多数あり、客殿からは京洛一円の景色が見渡せます。



▲三鈷寺客殿からの眺望

大原野神社 (おおはらのじんじや)



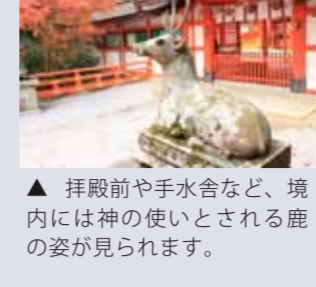
在原業平や藤原道長、紫式部も参詣した、山々の緑に朱塗りの鳥居が美しい大原野神社。長岡京遷都の時、藤原氏が奈良の春日大社の分霊を大原野に移し祀ったのが始まりとされています。

願徳寺 (がんとくじ)



徳のある願いによって建てられた寺院ということで「願徳寺」と名付けられました。国宝の如意輪観音菩薩半跏像が安置されています。

勝持寺 (しょうじ)



平安時代の歌僧、西行法師ゆかりの通称「花の寺」。自ら植えたといわれる八重桜「西行桜」を始め、境内には数百本の桜の木が植えられています。

勝持寺 南門前の石段



平安時代の歌僧、西行法師ゆかりの通称「花の寺」。自ら植えたといわれる八重桜「西行桜」を始め、境内には数百本の桜の木が植えられています。

勝持寺仁王門 (しょうじじにおうもん)



応仁・文明の乱から唯一焼失を免れた勝持寺の仁王門。仁王像は元々近くにある願徳寺にあったもので、本来の仁王像は収蔵庫で保管されています。



東海自然歩道

東京都八王子市の「明治の森高尾国定公園」から大阪府箕面市の「明治の森箕面国定公園」までの長さ1,697kmの長距離自然歩道。案内板や道しるべ等が整備され、緑豊かな自然と歴史、文化財に触れ親しむための自然散策ルートです。

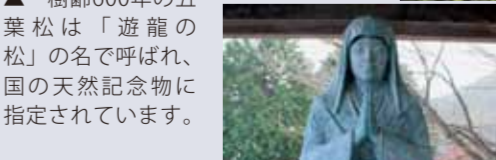
善峯寺 (よしみねでら)



平安時代中期、源算により創建された寺で、西国三十三観音霊場の第二十番札所。後鳥羽天皇、源頼朝等の帰依を受け隆盛を誇りましたが、応仁・文明の乱で荒廃し、桂昌院の寄進により再興されました。京都屈指の花の寺としても名高く、四季折々の多彩な花々を楽しめます。



▲樹齢600年の五葉松は「遊龍の松」の名で呼ばれ、国の天然記念物に指定されています。



見晴らしの良い境内の「けいしょう殿」にある桂昌院像 ▶

▲約3万坪の広さを誇る見晴らしの良い境内からは、東山連峰や京都市内を一望するパノラマが広がります。

人物探訪



在原業平 (ありわらのなりひら) 825年～880年



桂昌院 (けいしょういん) 1627年～1705年

正法寺 (しょうぼうじ)



通称「石の寺」。徳川将軍家の祈願所となったことから、徳川氏関連の古文書が多数所蔵されています。動物の形に見立てた石が配置された庭園「鳥獣の庭」や、借景庭園も見所です。

金蔵寺 (こんぞうじ)



小塩山の中腹にある静かな山寺。紅葉の隠れた名所として秋には多くの参詣者が訪れます。寺は戦乱によって幾度となく焼失しましたが、桂昌院によって再建されました。



▲金蔵寺を再建した桂昌院を弔うために建てられた桂昌院廟所。内部の石塔下に遺髪が納められたといわれています。



▲金蔵寺の見晴らし台から京都市内を一望できます。

マップ目印解説

- おすすめルート
- 登山道
- 寺社境内
- 竹林
- P 駐車場
- トイレ
- バス停
- 警察
- 信号機
- 東海自然歩道の道標
- 写真撮影おすすめポイント

5 大原野



～文化財と遺跡を歩く～ 京都歴史散策マップ



発行 京都市・財団都市埋蔵文化財研究所

大原野周辺の発掘調査

京都市西京区大原野の一带は、長岡京遷都を機に開発された遊獵地で、桓武天皇から陽成天皇、のちに醍醐天皇が行幸して鷹狩を行う等、王朝貴族の遊獵の記録が多く見られます。また、大原野神社は、長岡京遷都に際して桓武天皇の皇后であった藤原乙牟渰（ふじわらのおとむろ）が奈良春日社への参詣の不便を解消するために創祀したと伝わる等、藤原氏出身の后と深い関わりがあり、皇太后・藤原順子を皮切りにしばしば後の行啓（ぎょうけい）（※1）もありました。『源氏物語』が書かれた一条天皇の時代にも、寛弘2（1005）年3月8日に中宮・藤原彰子（上東門院）が妹の尚侍・妍子と共に「如行幸時」や「如行幸儀式」と記されるほどの盛大さで行啓しており、『古今和歌集』巻第十七や『伊勢物語』第七十六段に取められている歌「大原や小塩の山もけふこそは神代のことも思ひいづらめ」は、このとき東宮妃であった藤原高子の大原野神社参詣に際して贈った在原業平の詠歌です。また、『源氏物語』行幸巻での冷泉帝と光源氏の贈答歌「雪深き小塩山にたつ雉の古き跡をも今日は尋ねよ」「小塩山深雪積もれる松原に今日ばかりなる跡やなからむ」や、先ほどの在原業平の歌にも詠まれている小塩山は、大原野神社辺りがちょうど麓にあたり、西へ2kmほど登った山頂は淳和天皇が遺灰を散骨した場所とされ、淳和天皇陵があります。このように、大原野は平安時代、天皇家や藤原氏が度々訪れた由緒ある地であり、同時に繁華の地としても栄えます。また、それ以前にも群集墳が造られる等、早くから拓かれた場所といえます。発掘調査からもその一端がうかがわれ、古墳や寺院跡、平安時代から中世にかけての社家跡や寮跡の発見等、この地の様々な歴史が土の中から垣間見ることができます。

※1 皇后・皇太后・皇太子・皇太子妃の外出のこと。

1 勝持寺日境内

勝持寺の歴史は古く、寺伝では延暦10年(791)年に桓武天皇の勅を受けて最澄が再建したとされ、寺所有の絵図によれば、中世には49の寺院が建ち並んでいた様子があるが、平成22年からの調査により、この勝持寺の寺院を画する石垣や石塁あるいは造成された平坦面や堀り込みの平坦面とそれに伴う建物跡と考えられる柱穴や土坑・溝などを発見しました。出土遺物から鎌倉時代から室町時代後半のものと考えられます。



2 南春日町廃寺

大原野小学校の北約300mで昭和55年グランド造成中に偶然瓦がみつき、発掘調査により塔跡が発見されました。塔基壇は一辺9.2m、塔の平面規模は一辺4.5mの方形で、出土遺物から奈良時代のもと考えられ、平安時代の中頃にはすでに廃絶していたようです。葺（ふ）かれた瓦類は同時期のものより小型で特異なもので、塔跡だけでしか発見されていません。寺院の規模や伽藍配置等は不明です。



3 南春日下西代遺跡（鎌倉時代～室町時代）

大原野神社の南東約700mの地点、小学名の下西代地区、地元では下社家と伝承されている場所で鎌倉時代から室町時代の建物4棟や井戸跡4基が発見されました。また、付近からは平安時代の遺構もみついています。これらの遺構群が堀によって区画されていることや、遺構の方位がほぼ真北で、大原野神社と同一であることから伝承どおり社家の一部と考えられています。



4 大原野松本遺跡（奈良時代）

大原野小学校から東へ約300mの地点で農業土地改良事業が実施されるため、平成8年に一帯が発掘調査されました。その結果、奈良時代の大型建物や倉庫等を含め、14棟もの建物が整然と並んだ状況で発見され、同時に井戸や土坑もみつかりました。この調査地点の東には小畑川西岸を西北に進み、老ノ坂に通じる古山陰道が想定されることから、これらの建物群は単なる集落ではなく郡衙（くんが）（※2）や駅家等と考えられています。

※2 日本の古代律令制度の下で、郡の官人（郡司）が政務を執った役所



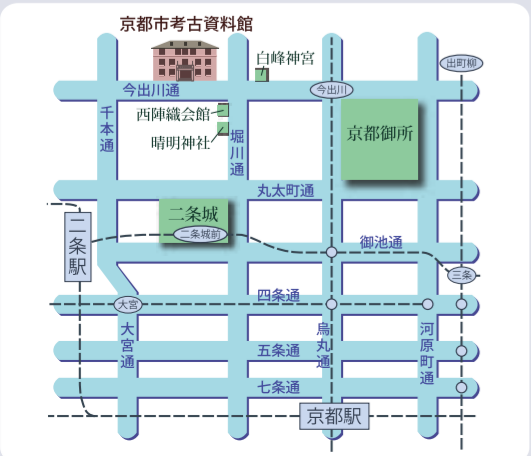
京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265-1
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/

入館無料・月曜休館（月曜が祝日の場合は翌日）
開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）

JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分
市バス201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ



5 下西代1号墳

下西代1号墳が見つかった場所は藤原氏の氏神を祭神とする大原野神社の東南約800mの地点で、一帯は緩やかな丘陵地帯でどかな田園風景が広がっています。明治6年に作られた大原野村地籍図をみると下西代と記され、地元の人々は下社家と呼んでいました。平成元年3月の発掘調査で、水田の下から横穴式の石室が出土しました。古墳の墳丘規模は直径18mの円墳で、石室の上部は残っていませんでしたが、全長7.5m以上、玄室長3.0m、幅約1.6m、羨道長4.5m以上、幅約1.1mの両袖式のものでした。石室内から出土した遺物から、築造は6世紀末と考えられ、数度の追葬が行われたようです。



6 灰方古墳群1・4号墳

大蔵神社から南に200mほど下がった地点で、市道大原野道の拡幅工事に伴って立会調査が実施されました。この一帯は9基の古墳からなる灰方古墳群に推定されている場所ですが、道路造成等でかなり破壊され、正確な場所が不明でした。調査ではまず、大きな石材や拳大の礫が入った層や、その南側で古墳らしきものが確認され、続いて石室の3分の1が残存するものと、石室の北西隅のみが残存する2基の古墳が発見されました。前者を4号墳、後者を1号墳と呼んでいます。古墳の形状は両基とも不明ですが、出土遺物から4号墳は6世紀後半に、1号墳は7世紀前半に築造されたものと推定しています。



7 灰方寮跡1・2号寮

灰方古墳群から南に約400m、府道向日・善峰線の南側山中で発見された寮跡です。1号寮（写真上）は尾根の東斜面に、2号寮（写真下）は1号寮の北西40mの北斜面に構築されていました。両寮とも平安時代の須恵器と緑釉陶器の素地を焼成したものです。1号寮は実長4.85m、床幅約1.1m、2号寮は実長5.1m、床幅約1mの大きさでした。



大原野エリアの発掘調査地分布図



資料提供：財団法人京都市埋蔵文化財研究所